

広報広聴特別委員会会議記録

【開催日時】 平成28年6月1日（水） 午前10時～午前11時19分

【開催場所】 第1委員会室

【出席委員】

副委員長	河野朋子	委員	大井淳一朗
委員	笹木慶之	委員	下瀬俊夫
委員	中村博行	委員	矢田松夫 (遅参)
委員	山田伸幸	委員	吉永美子

【欠席委員】

委員長 長谷川知司

【委員外議員等】 なし

【事務局出席者】

局次長 清水保書 書記 原川寛子

【付議事項】

- 1 議会報告会のあり方について

【議事の概要】

- 委員長が病欠のため、副委員長が委員長代理を行うこととした。
- 前回までの委員会の決定事項として、委員長が議会報告会の総括文書をまとめること（調整中のため後日行う）、6月は市民懇談会ではなく議会報告会として実施要綱に沿って行うことを確認した。
- 6月議会報告会で議案の報告をするかどうかについて意見を出し合った。
 - ・委員会中継を見た方から議会はそんなに議案がないのか、議案があるのになぜ報告しようとしらないのかという指摘があった。
 - ・民福でいえば6月の議案は余り大きな予算の変更ではないので報告は難しい。国保料の引下げはきちんと市民に報告したほうがいい。
 - ・説明しづらいとか一般的に余り関係ないものもあるかもしれないが、知らせたほうがいいものを各委員会で取りまとめて報告すべきである。
 - ・総務は5月臨時会や所管事務調査もあるので十分対応できる。
 - ・産建は公共交通など行政が方向性を出していないものについて、市民の意見を求めるという形であれば十分対応ができる。
 - ・議案に重い軽いはないが、それを市民が聞きたいかどうかである。
- 議会報告会の形式について意見を出し合った。
 - ・子育てをテーマに議会報告会に携わってこなかった層も巻き込みたいとい

- うことであれば従来どおりの教室型では何も解決しないのではないか。
 - ・場所の選定は、公民館にこだわらず自治会館等でやったらどうか。
 - ・テーマを子育てにして、対象者も限定してやろうという点は一致してなかったのか。
 - ・前々回の議事録では一致したようになっていたが、今回は議論が戻った。
 - ・改革はあり得る。これまでの総括をきちんとした上で、一致している子育て支援とか対象者を限定するという方向で、議会報告会を継続してやっていくということについては何も問題はない。
 - ・自治会へのアプローチは、自治会懇談会に抵触しない範囲で今後すみ分けを考えていく。
 - ・子育てサークルに声を掛けるのは大事だと思うが、全市民対象なので、場所を考えないと行きづらい。
 - ・市民懇談会であれば対象を限定してできるが、議会報告会であれば日中來られない人や時間帯を考えないといけない。
 - ・広く開放するのであればサークル以外の時間を設定する形も取らざるを得ないのではないか。
 - ・テーマを絞って議会報告会を基本にやっていくのであれば、地域や時間を限定するのはしょうがないのではないか。
 - ・児童館ということになれば、どうしても小野田だけになってしまうので、場所の選定についてはよく検討すべきである。
 - ・6か所を前提に考えればテーマによってボリュームに差を付けた会場設定をしてもいいのではないか。
 - ・テーマをいろいろ広げすぎると対応できないので、テーマは子育てということに一致したということにしたい。
 - ・特定の人を対象にするのであれば会場は限定される。議会報告会の性格上、地域の人にも呼び掛けるといった仕組みが必要である。
 - ・相手を限定してやるような仕組みをやっていくのかということを確認したらいい。
 - ・子育て支援にしても対象を限定したほうが話としては持っていきやすい。
 - ・市民懇談会との区別が付かなくなるので、声掛けはして、オープンな形でやるという位置付けがいい。
- 報告内容について意見を出し合った。
- ・一部、二部構成でやるという考え方か。
 - ・延々と議案の報告をしてしまうとお母さん方が引いてしまうので、議会の仕組みなどを冒頭に説明した上でテーマに入っていき方がいい。
 - ・報告の内容も対象者に沿ったものに絞った方がいい。
 - ・会場ごとに少し報告内容を変えてもいいのではないか。
 - ・会場ごとに柔軟に対応していくというのは難しい。
 - ・地域性に応じてウエイトを変えていく。
 - ・今回はお母さん方がターゲットということなので、テーマも絞った形でやった方がいい。
 - ・産建の報告内容を子育てに関連してとなると、プレミアム商品券を幅広い

層に聞いてもらえるような内容にするのか。

- ・第一部で議会報告会、第二部で子育て支援に分けるという話である。
- ・子育てといっても対象年齢が広いので、報告の内容は一本化できないのではないか。
- ・どこに出掛けて行くかにより固まってくる。
- ・未就園児の子供を持つお母さんということで一致していたと思うので、その方向でやったらいい。

○会場、日時の設定、班編成について意見を出し合った。

- ・児童館と子育て支援センターの関係性、利用者数はどうか。
- ・そもそも受け入れてもらえるのか。
- ・担当課にも打診し、あらかじめきちんと時間を設定すれば協力してもらえるのではないかと聞いています。
- ・サークルの時間内に完結する時間設定で行う。
- ・同じ曜日に重複しているサークルがあるので、二、三週間掛けて行うのか。
- ・受け入れてくれるところを中心にしながら設定すべき。
- ・山陽地区のフォローも考えていかないといけない。
- ・平均参加人数1組のところもある。
- ・児童館だけでなく保健センターや保育所もある。その中で何箇所か選ぶ形を考えている。
- ・サークルの時間内にすべきであり、別の日を設定するのは難しい。
- ・周知の時間も必要であるので、長いスパンで考えたほうがいい。
- ・委員長や事務局に会場の設定は任せてほしいが、会場数、班編成については委員会で決定したい。
- ・班編成は従来どおり3班、6か所で校区単位の会場設定をしたらどうか。
- ・一般市民の参加が可能かどうか相手方に確認する必要がある。
- ・班以外の議員の参加は控えるということかどうか。
- ・班を二つに分けて少人数で行ったらどうか。
- ・民福の比重が多いと思うので、民福が二人いる従来どおりの班がよい。
- ・六、七人は圧力を感じるので最小限の3人ぐらいがいい。
- ・テーマを絞ったということは議会としてのテーマでもあるので、出掛けていった3人が責任を持って対応するという姿勢でやるべきである。全員が問題意識を持っていくということになれば圧力を感じさせない3人でも大丈夫。
- ・議会全体としてフォローしながら答えるという対応でいいのではないか。
- ・グループワークを中心にするのであれば3人は少ないが、意見を聴取するという形であれば人数が多いと圧力になるのは確かである。
- ・ターゲットを考えた上での報告内容を作ることと、報告の仕方も工夫が要るということは今後各委員会で伝えてほしい。
- ・班編成は3人ないし4人で進める。

○その他

- ・意見交換をして議会がどういうふうに返していくのか、政策提言につなげていくのか。

- ・政策提言をしているので、その追跡を兼ねて今後に生かしていく。
- ・委員会で議論して政策に生かしていくことは必要である。
- ・要綱では全ての会場に出席とあるが、議長の参加はどうするのか。
- ・今回は新たな取組なので、要綱にとらわれず一から決めたらいいと思う。
- ・議長にも班に入ってもらおうというのも一案である。
- ・要綱の見直しも今後併せて行う。
- ・紙で報告し、説明は最小限にするような工夫が要るのではないか。
- ・3月議会報告会での要望・意見一覧表は紙として出していけば報告の時間は省ける。
- ・児童館での準備も難しいので、パワーポイントもやめて資料を配布したらどうか。

【結果】

- ・班を今ある3班を二つに分けて少人数で各会場に行く。
- ・6会場の選定は委員長、副委員長、事務局で調整する。
- ・ターゲットが絞られているので、各委員会で簡潔な報告にまとめる。

2 その他

次回の委員会については、各団体とある程度日程等の調整ができてから開催する。

平成28年（2016年）6月1日

広報広聴特別委員会副委員長 河野 朋子